



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 20

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 20. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1954, 20: 1-4

ISSUE DATE:

1954-05-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186859>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会
水族館月報

No. 20

1954年4月（5月1日）

昨年に比べての入場者増加率が3月に入って激減したので、4月の入場者数がいさゝか減にかいついていたが、月末の統計を見ると、ほぼ3月程度の増加があった。しかし、入場者を観客類別すると、近郊からの来観客が増えているように思われる。この事は行楽シーズン以外における入場者が昨年よりも減少する可能性を示しており、嚴重な警戒が必要である。

冬を過すと、さすがに水槽の魚類も弱つて来て、強い魚でも春に入つてボツボツ死に始めるのが常である。低温時に攝餌量が少い事が衰弱の原因となり、それがまた魚病に対する抵抗力を弱めるのであろう。15日より、ウツボ、カゴカキダイが死にけり、現在、ウツボは1尾、カゴカキダイは2尾を残している。樟岩を誇つていたマイカも1日に2匹共死滅した。温水槽でも10日 アミシガラが死滅し、屋外の大水槽でも、昨夏〜秋に攝餌しなかった アカツギメが22日、28日に死滅し、現在3尾が残っている。

他方、近海における漁業が活発化したため、持ち込まれる魚類も豊富で、夏〜秋季に採集される熱帯魚こそ缺けているが、各水槽ともほぼ飽和状態を続けている。

7日、Bポンプ系の汲水管のいずれかが腐蝕したため、ポンプに空気がたまって運轉不能に陥つた。長い道程を10日ばかりが振り返して精査の結果、水もろ箇所は一度修理したが、同じような事故は、またいつ起るか知れない状態にある。

冬期の人しく続いた渇水期に、底土の近くまで減水していた庭場の池も、6日の大雨以後は十分の水を湛えている。芝まじし雨後に硫酸を撒いて成長を促す事にした。

23〜25日、南館裏に瑞水族館の見学に赴いて貰つた。そして、27日17時半から館員一同が集つて、メモに基づき種々な角度から両水族館を比較研究したが、非常に得る所が多かつた。

10日、東白浜の川久旅館が全焼した。月末を以て、エビ網のシーズンを閉じた。

⑤ 4月の入場者数
水族館発券切符数

大人	8537	} 計 18491
小人	954	
団体	8700	

明光バス発売切符数

大人 18317 } 計 18680
小人 363 }

合計 37171

無料入場者(白浜幼稚園、小学校等) 155

◎ 4月の収入

観覧券売上金 697,118.

租 入 2,922.

3月5日の繰越し 78,789.

計 778,829

◎ 4月の支出

一般経費

費目別	金 額	備 考
人件費	55,850.	
消耗品費	1,800.	
備品費	1,000.	
修理費	17,413.	
材料費	13,270.	
厚生費	1,200.	
諸税公課	1,721.	火災保険費
租 入	1,445.	
通信運搬費	1,420.	
合 計	95,519.	

水族館設備改善費 支出皆無

実験所改善費

費目別	金 額	備 考
印刷費	250,000.	
備品費	144,000.	Discovery Report 購入
設備修理費	450.	
合 計	396,450.	

博物館費

費目別	金 額	備 考
人件費	3,660.	
合 計	3,660.	

積立金

費目別	金 額	引 出 高	現 在 高	備 考
バス・ツツ貸金	9100.	28,000.	87,300.	
費小貸金	9100.	—	44,134.	
厚生	1,500.	—	3,852.	
災害時予備金	52,862.	10,000.	195,916.50	備、大震災貸付金 42,000. 貸付金 16,000.
会議費積立金	—	—	40,000.	
水族館借用料	—	25,150.	24,850.	
特別予備金	116,120.	—	521,680.	
合 計	128,742.	63,950.	917,732.50	

支出合計

一般経費..... 95,519.
 水族館設備改善費.....
 実験所改善費..... 396,450.
 博物館費..... 3,660.
 積立金..... 188,742.

計 684,371.

5月に繰越(..... 74,452.

◎ 4月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(19)	8	5	1
気温	14.5-12.5 16.5	14.0-20.5 17.2	14.6-19.1 16.0
水温	16.6-17.3 16.7	16.4-17.0 17.4	16.2-17.6 16.7

但し 水温は南水槽室
 水温は No.24 水槽で10時に測定

◎ 4月の魚

- 1..... コブセエビ: 3月末より獲れはじめ、現在 No.26 水槽中に7尾を収容している。かく多数を集めた事は珍しい。
- 2..... アカアシガニ: 5日北海岸の地曳網にも1匹かかった。現在3尾生存。
- 3..... マイカ: 水槽壽命46日。
- 4..... ヘイケガニ: 7日 ヒシガニと共に水槽に入った。こゝでは珍しい記録である。
- 5..... ウスラガイ: 1日採集。水槽壽命1週間。
- 6..... フコ: 6日 玉野市水族館より1匹貰った。これにエビスダイ1尾を呈す。フコは今後の結果、現在1匹1か残っていない。
- 7..... マトダイ: 附道でとれたものを温水水槽に収容したが数日で死滅。
- 8..... ノコギリガザミ: 撮影状態が悪かったものが10日に死んだ。
- 9..... インダイ: 11日 真余のものが No.35 水槽に入った。
- 10..... シシイカ: 14日 死滅。強いものは約50日の飼養に堪える事が判った。
- 11..... ハナシノカサゴ: 22日 No.27 号水槽に1尾入った。現在シノカサゴと合して3尾が見られる。
- 12..... Tachaster: 22日 No.27 号水槽に入ったが、夜間砂から出て来たガザミに喰ひ荒されてしまった。
- 13..... オオセ: 21日 入江に目見得。

◎ 1953年との比較

	1953	1954
入場者	3593.9	37171
売上金	676.057.	697.118.
支出金	521.702	684.371.